

知らなきや損する

日本の人口構成が大きく変化 人生設計の見直しが必要に

65歳以上人口の割合は
日本が世界で最も高い

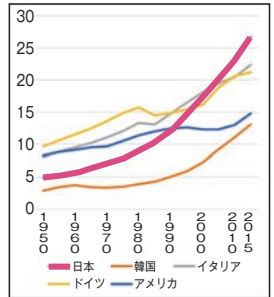
平成27年に行われた国勢調査の結果によれば、平成27年10月1日現在の日本の人口は、世界で10番目に多い1億2711万人で、5年前に比べると94万7千人(0.7%)の減少となりました。この人口減少は、大正9年の調査開始以来、初めてです。また、男性の人口は6182万9千人、女性は男性より345万2千人多い6528万1千人です。

そして先月29日には、5340万3千世帯の約1%に当たる約50万世帯を抜き出して集計した結果の発表がありました。それによると、総人口を年齢3区分で見た場合、15歳未満人口が1586万4千人、15~64歳人口が7591万8千人、65歳以上人口が3342万2千人で、平成22年の前回国勢調査と比較すると、15歳未満人口も15~64歳人口も人口比率は減少、一方で65歳以上人口は23.0%から26.7%に上昇しました。この65歳以上人口の割合も、調査開始以来、最高となり、図のようにイタリアやドイツも割合が高いのですが、日本が世界で最も高く、しかも増加率のスピードが速いのが分かります。

15歳以上人口のうち、就業者(企業で働く人や自営業者など)と完全失業者(現在は働いていないが仕事を探している人)の合計人口を「労働力人口」と言います。専業主婦や退職した高齢者、学生など就業の意思がない人は含まれてはいません。この労働力人口は、日本の経済活動を支えている人々の総計を意味します。15歳以上人口のうち、労働力人口の割合を「労働力率」と言い、27年は59.8%で、前回と比べて1.4%低下し、低下傾向は平成12年以降続いています。男性の労働力率は、70.8%で前回から3%低下、女性は49.8%で0.2%上昇していますが、男性では60~64歳で0.5%、65歳以上で0.6%上昇し、女性では15~24歳と45~49歳以外の年齢で上昇しています。

一般世帯数は、5187万7千世帯で、1世帯当たりの平均人数は2.39人、前回より減少しています。また最も多い世帯は「単身世帯」で32.6%、前回と比べ増加しています。65歳以上人口で見ると単身世帯が16.8%、65歳以上の男性のうち8人に1人、女性では5人に1人が一人暮らしだそうです。住居では、持ち家の世帯数が最も多く63.6%で前回に比べ1.7%上昇しています。また老人ホームなどの施設に入居する高齢者は4割増え、10年前と比べて2倍になっています。

このように国勢調査から将来を読み解くと、社会の大きな変化が浮かび上がってきます。急速な少子高齢化に対応するためには、保育士・介護士の処遇改善や交通や医療・介護のインフラ整備、高齢者向け住宅に空き家対策も必要です。また年金や医療保険などの社会保障制度の見直しや配偶者控除など税制の見直しも検討されているようです。現役世代にさらなる負担のしかかるでしょうし、今後は高齢者にも相応の負担が求められるようになるでしょう。社会の変化とともに、自分自身の生活設計も見直していかなければなりません。



暮らしのマネープラン相談センター 所長
サートファイアドファイナンシャルプランナー 高橋 昌子

いしかわ暮らしのマネープラン

あなたの暮らしと財産を守るパートナー

- **時間相談** …… 1時間まで3000円 2時間まで5000円
教育資金・老後資金・相続・住宅ローン・保険の見直しや商品選択、確定拠出年金など何でも相談できます
- **マイホーム資金・住宅ローン相談** …………… 3万円
無理のない予算額、頭金や購入時期、最適な住宅ローン・生命保険・火災保険など、マイホーム購入にまつわるマネープランについて何でも、マイホーム購入まで時間を気にせず相談できます
- **退職資金・マネープラン相談** …………… 3万円
退職後の手続き、年金や保険、退職資金計画など退職後の生活設計について何でも、時間を気にせず相談できます

